

---

## 1. 学歴

- 1998年 3月 一橋大学経済学部卒業  
2000年 3月 一橋大学大学院経済学研究科修士課程修了  
2007年 8月 ミシガン大学経済学部博士号取得(Ph.D. in Economics)

---

## 2. 職歴・研究歴

- 2007年 9月 - 2008年 3月 カリフォルニア工科大学人文社会科学部研究員  
2008年 4月 一橋大学大学院経済学研究科専任講師  
2011年 4月 一橋大学大学院経済学研究科准教授

---

## 3. 学内教育活動

### A. 担当講義名

#### (a) 学部学生向け

実験経済学, Public Economics, 公共経済学

#### (b) 大学院

実験経済学, Public Economics, 公共経済学, 経済学基礎論Ⅱ

### B. ゼミナール

学部後期, 大学院

### C. 講義およびゼミナールの指導方針

学生の皆さんには、講義を通じて「教養としての経済学」を身につけてほしいと考えています。経済学は必ずしも明日の生活に役立つものではありません。すぐに景気予測ができるようになるわけではないですし、卒業生が全員、エコノミストになるわけでもないでしょう。しかし皆さんが将来どんな職業に就くとしても、経済学の考え方の枠組みは思考の助けになります。

私のゼミでは、学生1人1人が興味を持っている社会問題について、経済学的な思考の枠組みを使って説得的な主張を展開できるようにすることを目指します。自分とは違う意見を持つ人を説得するため、どんな材料を集めたらよいか。マスメディアや官公庁が公開している資料や学術論文など、膨大な資料の中から必要なものを探し出す方法が身につくようにします。また、それらを上手く組み合わせで説得力のあるプレゼンテーションをするための、編集力、文章構成力、話し方といったコミュニケーション能力を磨くことを目標にします。

---

## 4. 主な研究テーマ

専門は、実験経済学、行動経済学。主に、組み合わせオークションや時間選好の研究に取り組んでいます。

### (1) 時間選好に関する経済実験

人は、将来得られる大きな利得よりも、少ない利得を現在得ることを好む傾向があります。時間選好とは、現在

と未来のトレードオフに直面する個人の意思決定にかかわる選好のことです。近年、経済学ではこの時間選好に関する研究(貯蓄・投資行動, 退職や医療行為の意思決定, 依存症の治療など)が進んできました。

私は、利得発生が遅延を現在時点でリスクに置換する経済実験を行い、リスクと遅延の正の相関を確認しました。このようにリスク選好と時間選好の両方が同時に働く意思決定をテーマに研究を続けています。

## (2) アイトラッキング(視線)

人の意思決定と視線には密接な関係があります。したがって、視線(どこを見ているか)を観察することで、その人の意思決定過程を推測することができます。また、逆に視線を誘導することによって、間接的に意思決定に影響を与えることもできるのです。この相互関係についての実験を行い、データを分析しています。

## (3) 組み合わせオークション

組み合わせオークションとは、複数の財が同時に競りにかけられる競売のことで、買い手は複数の財を組み合わせさせてパッケージを作り、入札します。ひとつの財を競り落とすだけのオークションに関しては、すでに確立された理論があり、実験研究の蓄積も豊富にあります。しかし組み合わせオークションについては、理論的研究が今、まさに進行しているところです。また、実験を重ねることで理論の形を探っている段階です。

---

## 5. 研究活動

### A. 業績

#### (a) 著書・編著

*Essays on Time Preference and Combinatorial Auctions*, Doctoral Dissertation, University of Michigan, 2007.

"Non-parametric Test of Time Consistency: Present Bias and Future Bias," In Ikeda, S., Kato, H. K., Ohtake, F., and Tsutsui, Y. (eds) *Behavioral Economics of Preferences, Choices, and Happiness*, pp. 77-116, Springer.

#### (b) 論文(査読つき論文には\*)

\* "Multi-Object Auctions with Package Bidding: An Experimental Comparison of Vickrey and iBEA," *Games and Economic Behavior*, Vol. 68, March 2010, pp. 557-579. (with Yan Chen).

\* "Scheduling with Package Auctions," *Experimental Economics*, Vol. 13, December 2010, pp. 476-499. (first author, with John C. Lin, Yan Chen, and Thomas Finholt).

\* "Non-parametric Test of Time Consistency: Present Bias and Future Bias," *Games and Economic Behavior*, Vol. 71, March 2011, pp. 456-478.

\* "Time Discounting: The Concavity of Time Discount Function: An Experimental Study," *Journal of Behavioral Economics and Finance*, Vol. 5, June 2012, pp. 2-9.

「耐震マンションを好む人はどこを見ているか: アイトラッカーを用いた研究」(齊藤誠と共著) 齊藤誠・中川雅之(編著)『人間行動から考える地震リスクのマネジメント: 新しい社会制度を設計する』勁草書房, 2012年, 207-229頁。

「アイトラッキングの可能性」齊藤誠・中川雅之(編著)『人間行動から考える地震リスクのマネジメント: 新しい社会制度を設計する』勁草書房, 2012年, 230-241頁。

#### (d) その他

「医療における行動経済学とナッジ」『医療経済研究』, 31(2), 2020年, 65-76頁。

## B. 最近の研究活動

### (a) 国内外学会発表(基調報告・招待講演には\*)

- \*「[実験+社会科学]は社会を変えたか?」, 第 20 回実験社会科学カンファレンス (同志社大学, 2016 年 10 月 30 日)
- 「Beetles play Nash: Mixed strategy equilibrium in their horn length」, 2017 ESA Asia-Pacific Meetings(台湾国立大学, 2017 年 2 月 17 日)
- 「Beetles play Nash: Mixed strategy equilibrium in their horn length」, 2017 ESA North American Meeting(バージニア・コモンウェルス大学, 2017 年 10 月 21 日)
- 「Beetles play Nash: Mixed strategy equilibrium in their horn length」, Behavioural economics: Foundations and applied research conference (シドニー大学, 2017 年 11 月 11 日)
- 「リスクと曖昧さの行動経済学」, 第 8 回アジア政策フォーラム(中国人民大学, 2018 年 11 月 1 日)
- 「The sad music changes risk preference」, 第 22 回実験社会科学カンファレンス(名古屋市立大学, 2018 年 12 月 22 日)
- 「科研費: 申請準備から採択まで」, 日本経済学会 2019 年度秋季大会若手・女性支援特別セッション(神戸大学, 2019 年 10 月 13 日)
- 「行動経済学の教育」, 行動経済学会第 13 回大会(名古屋商科大学, 2019 年 11 月 9 日)
- 「Eye tracking for Debiasing the Present Bias」, 第 23 回 実験社会科学カンファレンス(明治学院大学, 2019 年 12 月 1 日)
- 「Panel Discussion "Neuroeconomics"」, 日本経済学会 2020 年度秋季大会(2020 年 10 月 11 日)

### (b) 国内研究プロジェクト

- 「昆虫を使った経済実験による意思決定理論の実証」文部科学省科学研究費補助金, 挑戦的萌芽研究, 2016 - 2019 年度, 研究代表者。
- 「低炭素型の行動変容を促す情報発信(ナッジ)等による家庭等の自発的対策推進事業」, 株式会社 NTT ドコモ・学校法人立命館とのコンソーシアム, 2021 年 1 月 - 2022 年 3 月, 一橋大学側研究代表者。

### (d) 研究集会オーガナイズ

- 第 10 回行動経済学会記念大会・運営責任者, 2016 年 12 月 3 - 4 日, 一橋大学
- 日本経済学会 2017 年度秋季大会・プログラム委員, 2017 年 9 月 9 - 10 日
- 日本経済学会 2018 年度秋季大会・プログラム委員, 2018 年 9 月 8 - 9 日
- 第 12 回行動経済学会・プログラム委員, 2018 年 12 月 8 - 9 日
- 日本経済学会 2020 年度秋季大会・プログラム委員, 2020 年 10 月 10-11 日, 立正大学
- 第 14 回行動経済学会・プログラム委員, 2020 年 12 月 12-13 日, オンライン
- 第 15 回行動経済学会・プログラム委員長, 2021 年 12 月

## C. 受賞

- Outstanding GSI Award, University of Michigan(2000 人以上の講師のなかから優秀な 20 名に与えられる最優秀講師賞), 2006 年 3 月。
- 早稲田大学ティーチングアワード総長賞 実験経済学 I, 2020 年 1 月。

---

## 6. 学内行政

### (b) 学内委員会

学士課程教育専門委員(2016年度)  
入学試験実施専門委員(2017年度)  
入学試験実施専門委員長(2018年度)  
キャリア支援室室長(2019年度 - )  
学生委員(2019年度 - )  
入学試験実施専門委員(2020年度)

---

## 7. 学外活動

### (a) 他大学講師等

早稲田大学政治経済学部, 「実験経済学 A」, 2016年度- 2018年度  
早稲田大学政治経済学部, 「実験経済学 I」, 2019年度  
東京理科大学「経営行動科学特論」, 2016年度- 2020年度

### (b) 所属学会および学術活動

Economic Science Association  
日本経済学会  
行動経済学会(常任理事)  
Associate Editor, Economic Inquiry 誌(2010年8月 - )  
Associate Editor, Japanese Economic Review 誌(2015年6月 - )

### (c) 公開講座・開放講座

「1から学ぶ経済学」(主催:早稲田大学エクステンションセンター, 2016年5月14日)

### (d) 高校生向けの出張講義・模擬講義

出張講義(東京都立小山台高校)2017年12月22日  
出張講義(神奈川県立多摩高校)2018年11月27日  
出張講義(東京都立南多摩高校)2019年10月23日

### (e) その他(公的機関・各種団体・民間企業等における講演等)

日本証券業協会 資産の形成・円滑な世代間移転と税制の関係に関する研究会メンバー(2017年2月 - 現在)  
「社会保障の中長期課題への対応に関する研究」プロジェクト研究会メンバー(2018年12月 - 現在)  
「実験経済学的手法を用いた政策効果測定に関する講演会」(内閣府経済社会研究所, 2017年2月27日)  
「セイラー教授の「行動経済学」異端が異端でなくなった日」(財務省財政総合政策研究所, 2017年12月6日)  
「行動経済学とその応用」(オランダ大使館・再生可能エネルギーの普及に向けたグループ購入スキームの活用, 2018年2月15 - 16日)  
「意思決定のバイアス:行動経済学が示す非合理的な投資行動」(日本証券アナリスト協会, 2018年8月6日)  
「新型コロナ禍での地域活動に生きる行動経済学とナッジ」(中野区町会連合会, 2020年7月30日)

「行動経済学と『ナッジ』: 意思決定は合理的か」(日本ファイナンシャル・プランナーズ協会 FP フェア in 東京, 2020年10月11日)

「家事・育児の行動経済学」(板橋区男女社会参画課いたばしパパ月間, 2020年10月15日)

## 8. 官公庁等各種審議会・委員会等における活動

法務省・司法試験予備試験審査委員(2011年度 - 2020年度)

文部科学省・中央教育審議会・初等中等教育分科会・「教育課程部会 高等学校の数学・理科にわたる探究的科目の在り方に関する特別チーム」(2015年11月 - 2016年5月)

文京区「ぶんきょうハッピーベビー応援団」委員(2014年7月 - 2020年6月)

国立市保育審議会副会長(2015年2月 - 2016年11月, 2018年8月 - 2019年7月)

経済産業省ナッジユニットプロジェクト会合に係る委員(2019年6月 - 現在)

## 9. 一般的言論活動

「少子高齢化時代の選挙制度——世代別選挙区と平均余命による議席配分」『世界思想』, 43号(2016年春), 25-30頁。

「投資行動の行動経済学」『応用脳科学アドバンスコース「マーケティング」第3回』, NTT データ経営研究所, 2016年12月20日。

「非合理的な意思決定を実験で分析最善の選択を促す、行動経済学的「ナッジ」とは?」, NEC・wisdom, 2017年12月22日。

「竹内幹先生に聞く「行動経済学と実験経済学から経済と投資を読み解くと」」, みずほ証券・お金のキャンパス, 2017年12月27日。

「セイラー教授の「行動経済学」異端が異端でなくなった日」『経済セミナー』, 699号(2017年12/2018年1月号), 51-53頁, 2018年1月。

「セイラー教授の「行動経済学」異端が異端でなくなった日」『財務省総合政策研究所 ファイナンス』, 53(12), 77-82頁, 2018年3月。

「行動経済学と意思決定」『応用脳科学アドバンスコース「マーケティング」』, NTT データ経営研究所, 2018年2月7日。

「行動経済学と意思決定」『応用脳科学アドバンスコース「マーケティング」』, NTT データ経営研究所, 2018年10月11日。

「石先生から受けた御恩とゼミの思い出」『経済セミナー』, 705号(2018年12/2019年1月号), 53-54頁。

「投機に乗らずに心理を知って広義の「投資」を」『ニューズウィーク日本版』, 2019年10月8日号, pp.32-33。

「世の中 SAKIDORI ナッジ理論」(出演), 文化放送『斉藤一美ニュースワイドSAKIDORI!』, 2019年11月22日。

「(経済季評)株価の裏にあるもの 市場は「大惨事」忘れない」, 朝日新聞 2020年4月14日。

「この人を訪ねて(19) 竹内幹さん 世の中に広がるナッジの手法」(インタビュー), 『経済セミナー』, 2020年4月。

「【鼎談】社会で生きるナッジの手法(竹内幹×星野崇宏×山根承子)」『経済セミナー』, 714, pp.7-17, 2020年5月。

「経済学としてのナッジ」『経済セミナー』, 714, pp.18-22, 2020年5月。

「「隣の人洗ってる?」で石けん4倍消費 行動変える文言」(コメント), 朝日新聞, 2020年5月8日。

「人の行動を変える“ナッジ”で生まれる“新たな日常” コロナ社会を効果的で前向きに過ごす方策とは?」(コメン

ト), 読売テレビ ウェークアップ! ぷらす, 2020 年 5 月 13 日。

「新型コロナウイルスと行動経済学」(コメント), TOKYO FM 新型コロナウイルス関連情報, 2020 年 5 月 20 日。

「ウィズコロナを考える 第2波の警戒と新日常 行動変える仕掛けとは」(出演), BS 日テレ深層 NEWS, 2020 年 6 月 3 日。

「(経済季評)経済学における人種主義 制度的差別の解消へ、挑め」朝日新聞 2020 年 7 月 16 日。

「ウィズ・コロナ時代にも有用！一橋大学、竹内幹准教授に「ナッジ理論」についてお伺いしました」(インタビュー), TOKYO FM Think Japan, 2020 年 7 月 19 日。

「早稲田大学ティーチングアワード総長賞『学ぶ者として学生も教員も同じ』という姿勢で、大教室の学生一人ひとりと向き合う」, 早稲田大学大学総合研究センター, 2020 年 7 月 28 日。

「書評 那須耕介・橋本努[編]『ナッジ!?』勁草書房. 支援なのか模範の押し付けなのか」『週刊読書人』, 2020 年 8 月 28 日 3354 号, p.7。

「(経済季評)民主主義と経済発展 豊かさは討論尽くす先に」朝日新聞 2020 年 10 月 15 日。

「ノーベル賞理論で子育てが捗る!?'ナッジ'で、よりよい子育てライフを！」(インタビュー), ライオン株式会社 Lidea, 2021 年 1 月 6 日。

「(経済季評)危機の時代の意思決定 責任の分散が招く鈍感さ」朝日新聞 2021 年 1 月 21 日。